

ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症予防 （子宮頸がん予防）ワクチンについて

○ ヒトパピローマウイルス（HPV）は皮膚や粘膜に感染するウイルスで、200種類以上のタイプ（遺伝子型）があります。これらのうち主に粘膜に感染する種類は、性行為を介して生じる表皮の微少なキズから、生殖器粘膜に侵入して感染するウイルスであり、女性の多くが一生に一度は感染するといわれます。感染してもほとんどの人ではウイルスが自然に消えますが、一部の人でがんになってしまうことがあります。粘膜に感染するHPVのうち子宮頸がんの原因となるタイプが少なくとも15種類あり、16型、18型とよばれる2種類は特に子宮頸がんの発生に関わっているといわれています。また子宮頸がんをはじめ、肛門がん、膣がん・外陰部がん・陰茎がんなどのがんや生殖器にできる良性のイボである尖圭コンジローマ等、多くの病気の発生に関わっています。特に近年若い女性の子宮頸がん罹患が増えており、国ではワクチン接種での予防を推奨しています。

○ 定期接種として、2価及び4価ワクチンのほか、令和5年4月から9価ワクチンも公費で接種できるようになりました。2価及び4価ワクチンは、子宮頸がんをおこしやすい種類（型）である16型、18型の感染を防ぐことができ、子宮頸がんの原因の50～70%を防ぐことができます。9価ワクチンは、16型、18型に加え、ほかの5種類のHPV感染を防ぐため、子宮頸がんの80～90%を防ぎます。ただし、予防接種により軽い副反応がみられることがあり、極めて稀ですが重い副反応がおこることがあります。詳細は厚生労働省ホームページや厚生労働省発行リーフレット等でご確認ください。

○ HPVワクチン接種を希望する本人及び保護者の方は、予防効果や副反応を十分ご理解いただいた上で接種をお願いします。

